

# 広島県立水産海洋技術センターだより 発刊によせて



広島県立水産海洋技術センターの全景

広島県水産試験場は明治33年に創設され、その間幾多の歴史をきざんできました。昭和42年に広島市草津から現在地の音戸町に移転した後も、種苗生産、栽培漁業、かき養殖、赤潮等の研究を行ってききましたが、三十数年が経過し、施設の老朽化や狭隘化が目立つようになり、今日の諸課題に対応するのが困難になってきました。そこで、平成14年度から再整備に着手し、16年度末に工事が完了し、17年4月1日から広島県立水産海洋技術センターとして再スタートしました。新しい施設では海洋環境の保全・創造を図るための藻場・干潟等の環境修復技術の開発、海洋生物資源の持続的利用を図るための管理・培養技術の開発、海・川を一体化した試験研究の推進、広島かきなど養殖業発展のための試験研究といった課題を重点的に取り組んでまいります。新しい研究の取り組みに関しまして、引き続き皆様方の御支援、御協力をよろしくお願いいたします。

さて、水産試験場時代には昭和24年から、「水試だより」を発行してきました。発刊号は「戦後の混乱からいよいよ落ち着きを見せて、機関も本来の仕事に次第に移行しているのが今日の仕事でしょう。」ではじまっており、当時の有り様が読みとれます。また、当初の水試だよりは測定用紙や、印刷物の裏にガリ版で印刷されており、物資不足であった当時の状況がしのべられますが、「一生懸命本県の水産業の発展を日夜念願する気持ちを益々旺盛にして、それが本当に本県の何かの役割を演ずるよ

うにと、その手始めとして「水試だより」をご覧に入れることにします。」とあり、水試だより発刊にける意気込みが感じられます。紆余曲折がありましたが水試だよりはこれまでに216号が発行されております。このたび組織名称が変更されたのを期に、水試だよりにかわって「水産海洋技術センターだより」を発行することいたしました。先輩諸氏が水試だよりにかけられた情熱を継承しつつ、さらに読みやすく親しみやすい内容を目指して編集したいと考えています。これからも御愛読のほどよろしくお願いいたします。



所長 高場 稔